

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04856

研究課題名(和文) 学校歯科検診における支援ニーズの高いASD児への養護教諭の支援に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Supporting School Nurses in Dental Checkups for Autistic Children

研究代表者

池永 理恵子 (Ikenaga, Rieko)

関西福祉大学・教育学部・教授

研究者番号：10554115

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は自閉症スペクトラム障害児(以下、ASD児とする)が在籍する学校の歯科検診場面における安心安全な支援方法の示唆を得ることを目的とした。我々は6校の知的特別支援学校の歯科検診場面で非参加型観察法を用いた養護教諭と教師の支援方法を調査した。その結果、自閉症スペクトラム障害児が在籍する知的特別支援学校の歯科検診においては学年や障害特性に応じた教員配置や身体支持の複数のサポート方法の必要性が示唆された。また、検診時の挨拶に関わる言語や動作は絵カードを用いた明確な指示や称賛によって表出できる可能性が考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自閉症スペクトラム障害児(以下、ASD児とする)は特有の感覚過敏性により、口腔ケアや歯科治療に抵抗性を示し、そのために重度の齲蝕や歯肉炎に至る事例の報告がある。また、歯科治療時の恐怖や不愉快な体験の記憶がその後想起されるタイムスリップ現象によって、受診行動に影響を受けることも指摘されている。以上の点から、学校における歯科検診はASD児にとって生涯の自律的な口腔ケアの教育の場としてきわめて重要である。本研究は学校歯科検診場面に焦点化し、養護教諭や教員による具体的なサポート方法を比較検討した。今後、養護教諭や教員がASD児にとって安心・安全な支援体制を構築する上で有効な資料となり得る。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the actual situation of support giving by school nurses and teachers in the dental checkup at schools for children with autism spectrum disorders, and to obtain suggestions for safe and secure support methods. We investigated the support methods of school nurses and teachers using non-participatory observation method in the dental examination scenes at 6 intellectual special support schools. As a result, it was suggested that there are needs of diversified support methods on teacher's placement and physical supports suitable for the grade and disability characteristics in the dental checkups at special support schools contain children with intellectual disabilities and autism. We were also convinced that the words and actions related to the children's greetings during the dental examination could be elicited by clear instructions and admiration using the picture cards of the supporters.

研究分野：学校保健

キーワード：学校歯科検診 自閉症スペクトラム障害児 養護教諭

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2014年に障害者権利条約が批准され、障害のある子どもが十分な教育を受けられるための合理的配慮に関する基本的な考えが示された(内閣府,2014)。これを受けて教育現場での障害特性に応じた支援の実践が求められている。2012年に制定された歯科口腔保健の推進に関する基本的事項においても、障害児の定期的な検診や検診の受検が困難な状況に応じた支援の必要性が示されている。また、子どもの特性に応じた合理的配慮を進めるためには教員の支援方法や環境整備の工夫が必要とされる。自閉症スペクトラム障害児(以下 ASD 児)は偏食や特有の感覚過敏性により歯磨きなどの口腔ケアに抵抗性を示し、結果として重度の齲蝕や歯肉炎に至る場合があることも報告されている(宮本順美他,2010)(森崎市次郎,2011)。また、注意を維持することの困難さ、恐怖や不愉快な体験の記憶が想起されるタイムスリップ現象によってその後の検診の受け入れ行動や受診行動が影響を受けることも考えられる(杉山登志郎,2010)。これらの点から、ASD 児の生涯を通じた健康管理能力の獲得を目指した歯科口腔保健の教育を進める上で、学校歯科検診はきわめて重要である。学校歯科検診では、養護教諭と教員、学校歯科医が連携して安全で安心できる支援体制を確立することが求められる。しかし、国内における ASD 児を対象にした学校歯科検診の具体的な支援体制に関する研究は数少ない状況にある。

2. 研究の目的

ASD 児が在籍する知的特別支援学校の学校歯科検診場面における養護教諭および教員の支援の実際を明らかにし、学校間のサポートの種類や内容による比較を行い、知的特別支援学校の児童生徒にとって安全で安心できる支援モデル構築のための示唆を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

調査対象者は中国・近畿地方 3 府県の知的特別支援学校 6 校(A~F 校とする)の歯科検診を受ける児童生徒 500 名の歯科検診場面において支援にあたる教職員および養護教諭とした。今回の調査では知的障害および ASD 児(診断が無くても疑いも含める)の児童生徒の検診場面とした。調査実施方法は非参加型観察法とし、調査項目に沿って作成した調査用ワークシートへの記録を行った。各学校の歯科検診において研究者名によって検診場面の支援の実際を目視による観察によって調査用ワークシートへ記録した。調査内容は 学部校種、受検人数および性別 児童生徒一人をサポートした教員数、児童生徒への教員によるサポート方法、「抱く・頭を支える・複数以上の支持」、「見守る・声をかける」、「支持なし」の 3 観点、視覚支援の絵カード等教材の活用、児童生徒一人にかかった時間、検診時場面の挨拶に関する言語と動作の表出、の 6 項目とした。数値データは統計ソフト IBM SPSS Statistics 25.0 によって分析を行った。記述データは調査内容の項目ごとに分類して整理した。所属大学の倫理審査委員会の承認を得て研究を実施した。

4. 研究成果

(1) 対象者の学年は小学部 191 人(38.2%)、中学部 182 人(36.4%)、高等部 127 人(25.4%)であった。6 校の内、F 校は高等部のみであった。性別は男子 66.6%、女子 33.4%であった。検診人数は A 校 95 人、B 校 123 人、C 校 70 人、D 校 75 人、E 校 32 人、F 校 105 人で合計 500 人であった。児童生徒一人にサポートした平均教員人数は A 校 2.07 人が最も多く、少ないのは F 校 1.01 人であった。小学部の受検比率の最も高い A 校においてサポート人数が最も

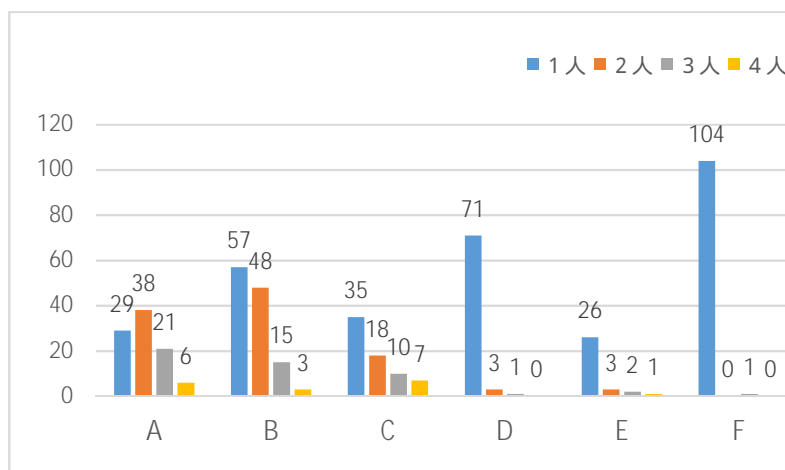


図1 児童生徒一人にサポートした教員数

多く、学年と教員数のクロス集計においても、低学年の方が教員数のサポートが多くなる傾向に有意差がみられた。(図1) 教員のサポート方法では、「抱く・手や頭を支える・複数以上の支持方法」が最も多かったのは B 校で 95.0%、次いで C 校 61.4%であった。B 校ではほとんどの児童生徒に教員が検診時の姿勢を保持するための身体支持によるサポートを行っていた。「見守る・声をかける」の支持方法が最も多かったのは A 校で 51.5%、次いで D 校で 46.6%であった。「支持なし」は F 校のみ 100.0%であった。(図2) 視覚支援の絵カード等教材の活用では、一種類以上の教材使用が最も多かったのは C 校で 81.3%、A 校で 76.8%、

B校で74.0%であった。それ以外は1.0%以下であった。F校においては一種類ではあるが100%活用していた。児童生徒一人にかかった検診時間では、全体では20～60秒が最も多かった。100秒以上が多かったのはC校で37.1%、次いでD校で25.0%であった。F校については20～60秒が90.4%でほとんど60秒以内に検診を終えていた。検診場面での挨拶に関わる言語と動作の表出について、言語表出が最も多かったのはF校で、検診の始めまたは終わりに「お願い

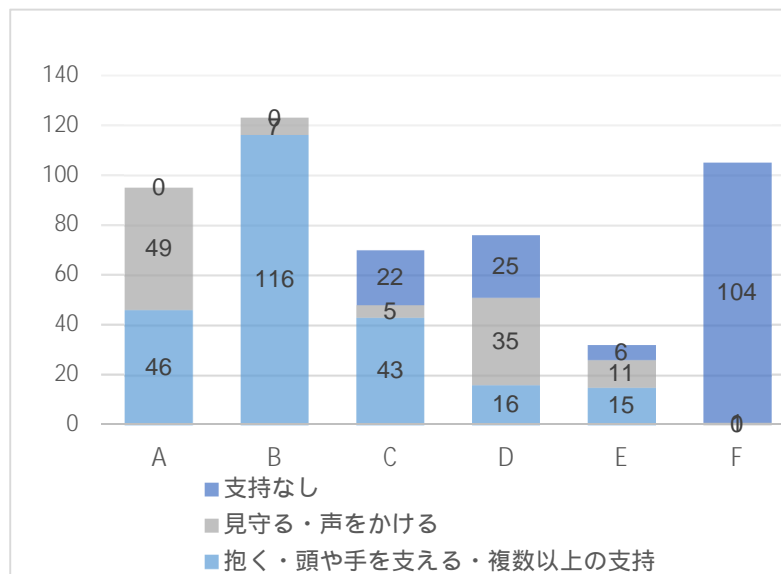


図2 児童生徒への教員のサポート方法

します・有難うございます」のどちらか一方、または両方の言語表出が36.1%であった。次いでB校が33.3%であった。しかし、挨拶に関わる動作のみを加えるとB校は72.3%に上り、高等部のみのF校41.9%と比較しても著しく高かった。B校において学年と言語表出のクロス集計では、小学部よりも中学部に挨拶の言語表出がみられる傾向に有意差がみられた。(2) 障害歯科の先行研究では、受診受け入れ行動に発達年齢や日常生活行動に関連があることが示されている。今回の調査結果からも、高等部のみの学校と小・中・高等部までの学校との比較では教員のサポート人数や方法および検診時間において、発達年齢との関連があることが考えられた。小学部の受検者比率が高い学校は、教員数が複数以上配置され、頭や体を支えるなど検診時の姿勢保持のための身体支持のサポートを行っていたことから、低学年には複数以上の教員数や身体支持の複数のサポート方法が必要であることが示唆された。また、挨拶に関わる言語と動作の表出においては、他校と比較してB校に顕著な差がみられた。B校においては、「始め」と「終わり」の絵カードを示すと同時に挨拶の言語動作を指示して、できたら「褒める」一連の指導を実施していた。このような明確な指示と称賛のアプローチによる効果によるものと考えられる。(3) 歯科検診においては学年や障害特性に応じた教員配置や身体支持の複数のサポート方法や教材の活用必要性が示唆された。挨拶に関わる言語や動作は絵カードを用いた明確な指示や称賛によって表出できる可能性が考えられた。

<引用文献>

森貴幸、武田則昭、江草正彦、末光茂、知的障害のあるA養護学校児童・生徒の歯科疾患実態 -養護学校と平成11年全国調査結果との比較-,川崎医療福祉学会誌, 12, No.2, 2002、431-437

和田充紀、池田優香、知的特別支援学校における歯科疾患の傾向および効果的な歯科保健指導の在り方の検討, とやま発達福祉年報6、2015、21-30

西村崇宏、柳沢明子、村井啓太郎、李博薫、特別支援学校(知的障害)における自閉症のある幼児児童生徒の在籍状況と自閉症教育の取組, 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル6, 2017、24-32

大西智之、久木 富美子、浜田 尚香、角谷 久美代、金高 洋子、藤原 富江、田井 ひとみ、畔柳 知恵子、前田 有加、樂木 正実、幼児期に体動抑制下での強制的な歯科治療を行った自閉症スペクトラム症児のその後の歯科への適創生の評価, 障害歯科、36、2017、154-161

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池永理恵子
2. 発表標題 学校歯科検診の支援の実際－知的特別支援学校を中心にして－（調査報告）
3. 学会等名 自閉症カンファレンスNippon2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池永理恵子
2. 発表標題 発達障がいのある子どもへの支援と保護者との連携－養護教諭の支援を中心として－
3. 学会等名 関西福祉大学第6回子ども支援セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池永理恵子
2. 発表標題 日本における発達障がい児の教育と支援
3. 学会等名 中国・内モン古財經大学における講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池永理恵子 赤坂直人
2. 発表標題 ノースカロライナTEACCHプログラム視察研修報告
3. 学会等名 特別支援学校等養護教諭グループ研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池永理恵子 赤坂直人 中嶋貴子 清水菜月
2. 発表標題 知的特別支援学校における歯科検診場面の養護教諭および教員の支援に関する実態調査
3. 学会等名 日本発達障害学会第54回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池永理恵子
2. 発表標題 特別な支援を要する子どもへの養護教諭の支援
3. 学会等名 特別支援学校等養護教諭グループ研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高尾 茂子 (Takao Shigeko) (10584485)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授 (35308)	研究分担者変更2017年削除
研究分担者	赤坂 真人 (Akasaka Makoto) (20289193)	吉備国際大学・社会科学部・教授 (35308)	
研究分担者	中嶋 貴子 (神宝貴子) (Nakajima Takako) (40305777)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・講師 (35308)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山内 芳忠 (Yamauchi Yoshitada) (70616218)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・教授 (35308)	研究分担者変更2017年削除
研究分担者	清水 菜月 (Shimizu Natsuki) (30803431)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・助教 (35308)	研究分担者変更2017年加入 2018年 削除
研究分担者	鈴木 みちる (Suzuki Michiru) (60831310)	関西福祉大学・教育学部・助教 (34525)	研究分担者変更2018年加入 2019年 削除
研究協力者	平木 真由美 (Hiraki Mayumi)		